

成人向

FOR ADULT ONLY

Dungeon Elf
Legion

ダンジョンエルフ
レギオン

画・桐島サトシ

Dungeon Elf
Legion




石造りの壁が大きな音をたて崩れ、奥の暗闇から触手が勢い良く飛び出した。
獲物の気配を察知した何本もの触手が絡みついていく。

獲物のその出で立ちには、銀の鎧に黄金の剣を携えた騎士……
長い耳を特徴とするエルフの女性であった。

即座に抜刀した女性騎士の束ねた金色の美しい髪が乱れた。

……ここは暗く湿った地中奥深くの遺跡ダンジョン
銀の鎧を全身にまとった誇り高き騎士の戦いが
今まさに始まるうとしていた。





女性騎士の身体に瞬く間に触手が絡みついた。
崩れた壁の奥は暗くよく見えないが、奥から無数の気配を感じる。

敵は一体ではない…徐々にその数は増えている。
急いでこの触手から逃れ体勢を立て直さねば…ッ

剣で断ち切ろうにも触手の恐るべき力が邪魔をする
それに加え表面の弾力性に阻まれ刃が通らず
切断することが出来ない…

全身に絡みついた触手は彼女の体内に潜り込もうと
その豊富な身体を弄ぶようにヌルヌルとまさぐり始める。

高い防御力を誇る騎士の鎧を物ともせず
体内への入り口を露わにされてしまった…。

今までの訓練や戦いで感じたことの無い激痛と異物感が下腹部を襲った。

肛門から彼女の腕ほどの太さの触手が体内にそして性器にも容赦無くえぐりこむ…

ブツンと何かが引きちぎれる音がエルフの鋭敏な耳に届いた。

性器からは純潔の証が脚につっつと垂れる…

下等な魔物に陵辱された屈辱で取り乱しそうになるのを騎士の誇りと精神力によって辛うじて持ちこたえる…

魔物に遅れを取り、純潔を奪われ正気を失うなど誇り高き騎士の姿ではない。

とにかくこの状態を脱出しなければ…性器や肛門に走る痛みをこらえ剣を握る手に力が籠もる！



触手の皮膚からにじみ出る粘液が潤滑油の役割を果たし直腸を抜け、更にその奥の奥にまで達している…

想像を絶する異物感から逃れようと身体仰け反った。

回や肛門…そして性器にまで挿入された触手からは耐えず麻痺性の粘液が分泌され続け痛みは徐々に抜け始める…

もはや脱出する術はないのか…手足に力が入らず、ついに手から剣を放してしまった…

一体内臓がどんな状態になっているのか想像もつかない…ブチュブチュと不快な音が洞窟内に響いている…



壁の奥からは相変わらず無数の気配がする。
この触手一本一本が魔物の物だとすると
おぞましい数が蠢いている事になる…

いっその事殺せ!!と声を上げてしまいたいが
喉奥にまで触手の侵入を許しており、それすら叶わない!

触手は子宮内にもで達していた…
子を育む部屋を魔物に蹂躪されてしまっている。
もはや子供を望めるような状態ではない…

まるで巢を構えたかのように胎内できぐるを巻いており
外側からはまるで妊婦のように腹が膨らんでいる。

うねる触手で自分の腹がグネグネと波打つ様子に
彼女の現実感失われていく…



この魔物達は捕食の為に
彼女を捕まえたのでは無かった。

捕食のつもりであるなら既に内臓から溶かされ
養分として吸い尽くされている。

それは捕食以外の目的…つまり繁殖の為に生殖器として
他の生物の雌を利用する習性があったのだ。

他の生物の生殖細胞と融合し
乗っ取ることによって多様性を確保する…
それがこの魔物の繁殖方法だ。

彼女の卵巣は魔物により寄生、改造され
恐るべき速さで排卵を強制される。

生殖器から魔物の精液が吹き出した…



ついに望まぬ子…彼女の遺伝子を受け継いだ
魔物の第一子の出産が始まってしまおう。

魔物を産むだけの臓器としての
おぞましき第二の生の始まりであった。

本来は耳から侵入した触手から脳に直接毒が打ち込まれ
脳死状態に陥らせるはずだった…

しかし彼女の銀の騎士鎧には
毒の効果を軽減する加護が吹き込まれており
半端に意識を保ったまま苗床にされてしまったのだ。

プリュプリュと出産とは思えない
下品な音を立て魔物の幼体が
子宮からひり出され床に落ちた。

エルフは長命な種族だ…
その耐用年数は長い…






勢い良く魔物の幼体が胎内から吹き出した。
それは出産というより排泄と形容したほうが良いだろうか。

ブリブリ、ビチャビチャと
下品な音がダンジョンに響く……

出産が終わると
すぐに次の精液が注入される……
改造された卵巣からは
耐えず卵子が放出されている。

子宮の口が閉じる間もなく
次の子の懐胎を許した……



彼女の腕よりも：下手すると足よりも太い極太の触手がグネグネと肛門から腸の奥に深くねじ込まれた…

ごぼごぼと液体が注入される音が聞こえる。

衰弱して死んでしまわぬよう体内に特濃の養分を注入されているのだ。

魔物に動物の口と肛門の違いがつかはずもない。どちらも消化器に繋がる「入口」である。これからは肛門から養分を摂らされ生かされる…

もはや排泄に使われることの無い穴である…。魔物にとっては特に問題があることではない。

触手が引き抜かれても肛門が閉じることはない。

ハアハアと荒い呼吸に合わせて
直腸内部がヒクヒクするのが見える。

ヌラヌラと濡れた直腸から立ち上る臭気と
ダンジョンの湿った空気が混じる…

それはダンジョンの小部屋のように
この暗く湿った場所の一部になった瞬間だった。

肛門括約筋は完全に弛緩し用を成さない…
彼女の肛門はもはや使い物には
ならないほどに拡げられてしまった。

彼女の新しい口は二度と閉じることは無い。

捕獲されて一体何年が経ったのか…何体の子供を産んだのか…
彼女は未だ生き続けている…

正常な意識が残ってるのかは定かではないが
もしまだ意識を保っていたとしたら
彼女はこう言うだろう。

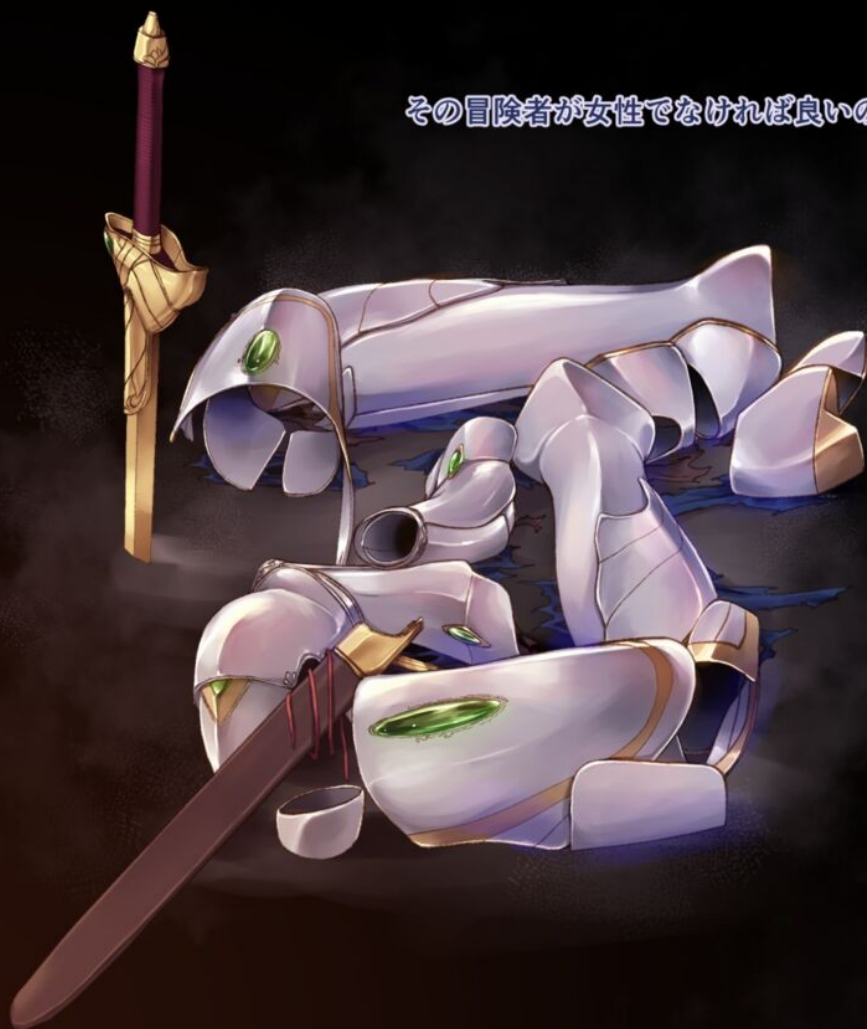
殺してくれと…



銀の騎士鎧は腐ちることなく
その性能が損なわれることはなかった。

いずれここを訪れる新たな冒険者に
この素晴らしい防御性能を持つ鎧だけが発見されるだろう。

その冒険者が女性でなければ良いのだが...



おわり



Dungeon Elf
Legion

Dungeon Elf
Legion



あとがき

お手に取っていただきましてありがとうございます。どうも桐島サトシです。今回は久々のオリジナルエルフ本です。エルフです。触手です。

タイトルは前回出したダンジョンエルフをベースにしました。2年位前でしたかね。正直タイトル考えるのって超面倒くさいというか何も思いつかない系なので…まあ無理矢理シリーズにしちゃえば楽だよなって話で、シリーズ風なタイトルになりました。普通に2つ作るってのが楽ちんではあるんですが、ダンジョンエルフ2とかにしちゃうと続編っぽくなるので辞めました。続編じゃないからね。

シリーズタイトルにする跟前やってた○の鍵シリーズみたいに考えるのがとても楽です。

中身に関しては、ダンジョンとエルフ…って所は共通項として内容に繋がりはなさ気。ただダンジョンってついちゃってるからダンジョン縛りになりますね…わかんない無視するかもwなんか森とかでもダンジョンみたいなもんだしいいよね。いいんだ。いいんだよ。

まストーリーは元々オマケみたいなもんですから、前も見たぞこのネタ！って言わないでねwその場その場でお願いしますw

しかし今回は触手の塗りがほんと大変で…w血管とかイボイボとか色々ゴテゴテしちゃってて普通に塗るより数倍の手間と時間が…まあ終わったから良かったですが。疲れましたw何本あるのか数えてみてねwあ、今回ちんぼ描いてないね！健全本だよ！健全！やったぜ。修正も少ないぞ！触手の先端をちんぼにすると修正案件になりますけどね。

背景は石壁にしたので楽でしたが、触手にリソース割いたのでそのしわ寄せが行ってるだけかも…石壁から触手ってのトラップっぽくて好きです。ただそっから捕食…って事になるとエロくないっていう…グロ。ザ・グロ。

流石にグロは描くのはも大変だし、わたしはやめておきますw

キャラはツイッター(@mogurag)で草案ラフを上げて固めていきました。結果出来上がったのは濡れたタオルアーマー。ガントレットと足アーマーは残して胴体はレオタード(?)…まあ王道スタイルですかね。金髪、銀鎧、青服っていうベタな配色パターンは避けたほうが良かったかも知れないけど、まあ避ける義理は別に何処にもないからまあいいかな。あのキャラっぽい！とか言われてもまあ割りと困りますw

さて次回はどーしましょかね。次回はエルフ本になるのはとりま決まっています。ダンジョンエルフナントカが出ると思います。中身は何描きましょうかね。前回調教、今回触手、ってきたら次は…スライムとか？なんか輪姦物だとか…全部昔やったよw敗北物って感じがいいですかねえ。あまりに変態的すぎるのもナンだっってんで難しいところです。手遅れかもしれないw

まあゆるゆると次の本の構想でも考えて行きますかね。次回は冬コミ受ければその辺になると思いますので、見かけましたらその時はよろしく願います。ではでは。 2017/12 桐島サトシ(マン)

ダンジョンエルフレギオン
発行日 2017年12月31日
発行者 桐島サトシ
連絡先 kirisima@alem.sakura.ne.jp
HP <http://alem.sakura.ne.jp>





Dungeon Elf
Legion



